

Zone 2 感じて考える 不思議な科学現象によるシンボル展示を通して楽しみながら科学的思考を養うゾーン

Zone 2 感じて考える 展示アイテム構成(「風の力で浮かぶ」を例に)



壁面展開イメージ



科学の不思議を感じるシンボルアイテム

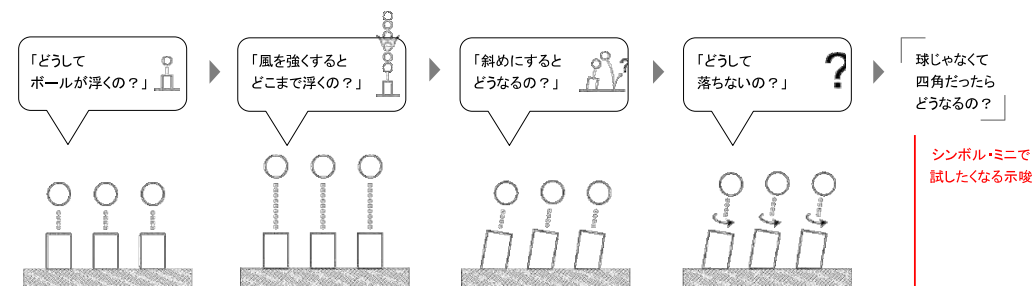
シンボルアイテムと示唆グラフィックを組み合わせた新科学館オリジナルの演出によって、直感的に「不思議を感じる」体験を提供します。

①シンボルアイテム

大きなシンボル展示を観察して、
科学の現象の不思議さにじっくり向き合うことができます。

②示唆モーショングラフィック

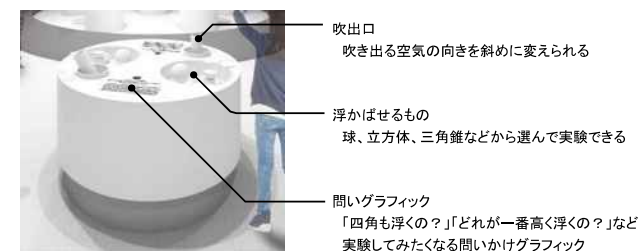
展示アイテムの不思議なポイントを示唆する図やキャッチコピー。
離れたところからでも目を引くように大きく映像で投影します。



シンボル・ミニで
試したくなる示唆

③シンボル・ミニ

シンボルアイテムのまねをしたり、
浮かばせるものを変えたりできる実験アイテムで、
科学の原理を考えてもらいます。



多角的な視点で興味を喚起する解説計画

直感的に感じた科学の不思議に多角的な情報を与えることで、
多様な「カガクのミカタ」に気付いてもらいます。

④発見の視点

科学の原理・原則を図やイラストを
用いながらわかりやすく紹介します。役立てられているか紹介します。
・流体力学
・ベルヌーイの定理

⑤くらしの視点

現象がくらしの中でどのように
役立てられているか紹介します。
・飛行機がなぜ浮くのか
・ゴルフボールの凹凸のわけ

⑥歴史の視点

原理・原則を発見した経緯や
発見した科学者に関するエピソードを紹介します。

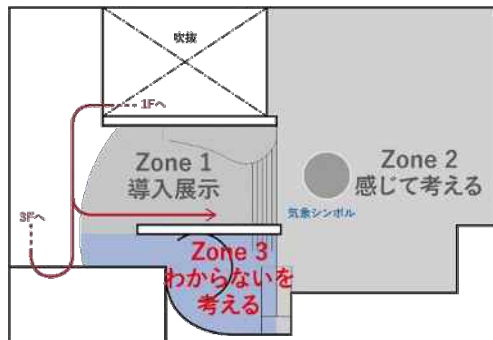
サイエンスショー

展示アイテムを使ったサイエンス
ショーを行い、普段と異なる体験・
観察を通じて新たな一面を発見で
きます。
また、グラフィックで語りつくせない
歴史や関連する科学をトークショー
で紹介します。

Zone 3 わからないを考える

過去の科学者の発見のきっかけや最新の科学の発見を伝えることで科学の探求心を養うゾーン

■平面構成



■展示構成案

Zone 3「わからないを考える」展示

現代科学でも解明され切っていない、身の回りに存在する様々な現象や、最新の科学を紹介します。

- ①わかってきたことを過去の科学者の視点で考える
- ②最新のわかってきたことを考える
- ③わからないことを考える

■展示イメージ



①わかってきたことを過去の科学者の視点で考える

科学史の中での重要な発見をもたらした偉大な科学者たちの「カガクのミカタ」を、グラフィック・映像・実物等で紹介。Zone2の展示と関連する内容で、さらなる科学を探究することへの意欲を掻き立てます。

（紹介例）

アイザック・ニュートンによる発見

展示室でも多く紹介する力学の歴史に先鞭をつけたニュートンの功績を紹介。また、わずか1年半の間に万有引力をはじめとしたさまざまな理論を打ち出した、ニュートンの思索に没頭する性格など、人となりに迫るエピソードも紹介

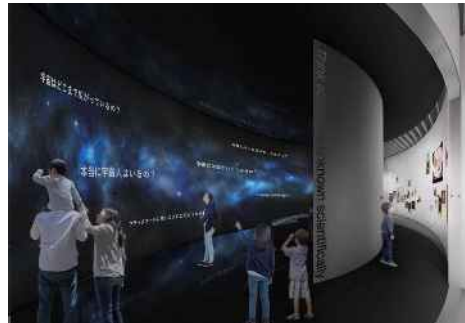
②最新のわかってきたことを考える

現在の最新科学を、どのようにして発見できたのかという「カガクのミカタ」に着目して紹介。可変グラフィックやデジタルサイネージを活用して、常に最新の科学を展示できる更新性の高い展示とします。

（紹介例）

Zone2の展示アイテムで取り上げる古典力学に対して、量子力学による近年の最新の発見や相対性理論などを紹介

③わからないことを考える



細胞・原子といったマイクロなスケールから宇宙空間まで、身の回りのあらゆる「わからない」ことを伝える、没入感豊かな体感型映像。ここまでの展示での様々な「カガクのミカタ」を通じて、想像力や考える力を高めてきた来館者に、未知の領域を直感的に伝えます。

- 地球の中はどんな色？
- 意識って何？
- 宇宙人はいるの？
- ブラックホールって？

身の回りにもわからないことがいっぱいある！

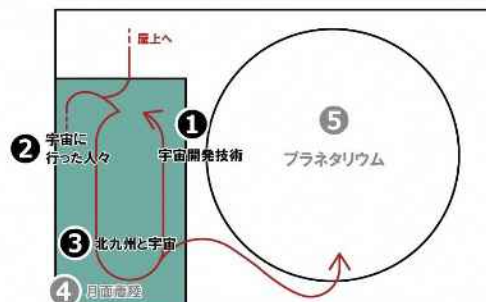
など

3階 宇宙

スペース・ラウンジ

宇宙と北九州市のつながりを受け継ぎ、宇宙への希望を育むフロア①

■平面構成



■展示構成案

- ①宇宙開発技術
- ②宇宙に行った人々
- ③北九州と宇宙
- ④月面着陸
- ⑤プラネタリウム
- 空間演出

■展示イメージ



①宇宙開発技術

宇宙に行こうと計画し、より知ろうとした技術開発史を通して、その想いや歴史への興味・関心を高めます。壁面にはリズムカルに展示物をレイアウトし、天井面や床面には解説も散りばめることで、情報を探求楽しさと、宇宙のアイテムに包まれる感覚を提供します。



スペースシャトルメインエンジン

②宇宙に行った人々

有人飛行の歴史に名を残した宇宙飛行士について、彼らの言葉を用いた映像演出や手形、功績とともに紹介します。



宇宙飛行士の言葉演出イメージ



宇宙飛行士手形

③北九州と宇宙

北九州市の宇宙産業開発の取組を紹介し、北九州市から宇宙へ飛び立つチャレンジ精神や希望を養います。



九州工業大学の超小型衛星

●空間演出：星座照明

照明の一部を、星座を表現する美しい演出とします。そのほか、立体の月球儀を使って月の満ち欠けについて伝えるなど、スペースラウンジに合った空間演出的な展示手法を展開します。



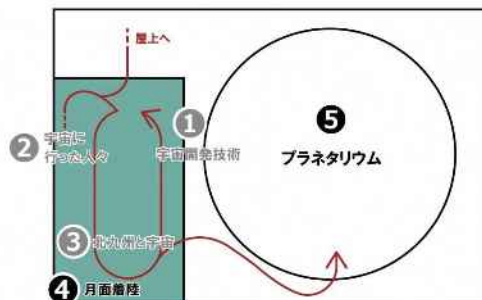
星座照明イメージパース

3階 宇宙

スペース・ラウンジ

宇宙と北九州市のつながりを受け継ぎ、宇宙への希望を育むフロア②

■平面構成



■展示構成案

- ① 宇宙開発技術
- ② 宇宙に行った人々
- ③ 北九州と宇宙
- ④ 月面着陸
- ⑤ プラネタリウム
- 空間演出

屋上 大型天体望遠鏡・観測ドーム

屋上の天体観測スペースには、大型の天体望遠鏡と天体観測ドームを設置し、多くの星を実際に観測することができます。また、ポータブル望遠鏡も備えることで、多くの人に多様な天体観測体験を提供します。

■展示イメージ



④ 月面着陸

宇宙開発技術史の中で、特に大きな出来事としてアポロ計画による月面到達プロジェクトを、実際の機体や道具等を通じてロマンを感じます。月の石やアポロ司令船、月で実際に使用された道具など、スペースワールドの宇宙博物館から引き継いだ、貴重な実物資料を展示します。



月の石



アポロ司令船



月面ゴルフ
6番アイアン

⑤ プラネタリウム

西日本最大のドーム径30mを誇り、高精細でより自然に近い星空を投影する光学式投影機や、臨場感ある映像を投影するデジタル式投影機を設置します。アプローチの通路もマインドセット空間として光を使った演出を展開します。



アプローチ通路演出イメージパース

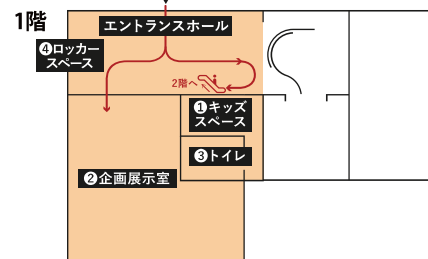
●空間演出：惑星軌道ライン

プラネタリウムの光学式投影機を中心（太陽）と見立てた惑星などの天体軌道を床ラインで表現します。軌道には床面キャプションも設置し情報としても意味を持たせます。



科学館での体験をより充実させる、共用部分の演出・機能

科学館らしい演出+機能



① キッズスペース

親子で科学を楽しむキッズスペース

力・音・光など科学のエッセンスを取り入れたアイテムなど、未就学児も親子で楽しめる、科学館のファンを醸成するキッズスペースとします。

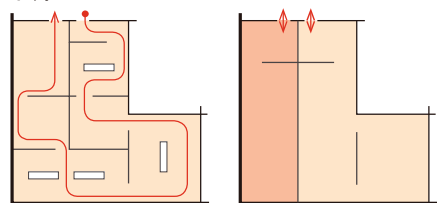
- ・立体クッション
- ・背比べウォールなど



② 企画展示室

大規模企画展も開催可能な企画展示室

1階エントランス正面には、天井高5m、約500㎡の面積を有する企画展示室を配置します。特別展や北九州市民の作品展示など、多目的に活用できる十分なスペースを備えます。



例1) 巡回展開催時
入場チケットのチェックを想定し、
入退場の動線が分かれたレイアウト

例2) 市民ギャラリーとして解放時
広く市民に使用してもらうため
大きくスペースを区切ったレイアウト

エントランスイメージ



③ 各階トイレ

すべての人が使いやすいトイレ

各階トイレは乳幼児連れの方をはじめ、多様な来館者ニーズに応えるためユニバーサルデザインとします。

- ・多目的トイレ（各階）
- ・授乳室（1階、3階）
- ・ベビシートを備えたひろびろトイレブース（各階男女トイレ）

科学館らしいトイレの演出

2階・3階のトイレにはそれぞれのフロアの展示室のテーマに則して、トイレ空間をグラフィックなどで演出した科学館らしいトイレとします。



3階トイレは星座をモチーフにした
グラフィックなど

④ 共用部

科学館運営に配慮した共用部分

ロッカーは十分な個数を確保し、来館者の多様化・増加に対応します。また、ロッカーの扉には科学をモチーフとしたグラフィックで北九州市の科学館らしさと楽しさを演出します。

1階の事務室付近に療養室を配置し、体調の悪くなった来館者等にもきめ細やかに対応が可能です。

その他、以下のスペースで来館者の利用や科学館運営に対応します。

- ・大型手荷物預かりスペース
- ・団体待機スペース
- ・休憩スペース
- ・ミュージアムショップ

地元企業との連携

展示室における企業連携展示に加えて、科学館の顔となるエントランスを中心に、地元企業の素材なども積極的に活用・演出します。

With コロナ時代への対応

⑤ 接触機会の抑制

事前予約・決済システム

スマートフォンやPCを経由した事前予約・決済を導入することで、受付を経由せず、QRコードの表示で直接プラネタリウムや展示室に入場できるシステムとします。

また、一定の時間ごとに入場者数を調整することができ、館内の密集対策としても有効です。

スマホでも楽しめるコンテンツ

通常の常設展示のほか、AR・VR映像や隠れた展示解説など、スマートフォン等の個人端末を活用したコンテンツを館内に展開します。非接触コンテンツで、科学館をより安全に楽しめます。

⑥ ハード面での対策

内装材による対応

エントランスやトイレなどの床材として、付着した菌・ウイルスを不活性化するタイルを採用します。光触媒技術を活用した床材で、館内でのウイルス等の拡散を防ぎます。

空調設備による対応

館内の空調装置に、空気中のウイルス等を分解する光触媒フィルターを設置します。共用部や展示室、プラネタリウム内の空調に伴って、空気を正常に保ちます。